

平成22年 5月 17日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320040

研究課題名（和文） 日本近世期における中国白話小説受容についての基礎研究

研究課題名（英文） BASIC STUDIES ON THE ACCEPTANCE OF THE CHINESE COLLOQUIAL NOVELS  
IN MODERN JAPAN

研究代表者

笹倉 一広（SASAKURA KAZUHIRO）

一橋大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：50196185

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本近世文学、中国白話小説

## 1. 研究計画の概要

当該研究は、

- a. 資料調査、収集
- b. 整理
- c. 報告書作成

を柱としている。ここで言う資料とは、日本近世文学の原典の紙焼きもしくは写真、日本に流入した「三言二拍」を始めとする中国白話小説諸本の情報および原典の紙焼きもしくは写真、関連論文を指す。

研究体制としては、日本文学・中国文学の分科会をとり、それぞれ、日本における中国小説関係資料の調査・研究、中国小説の研究・テキスト作成を役割りとし、相互に綿密に連絡を取り合う。

また、中国文学方は日本文学研究家一般に広く利用可能な中国白話小説のテキストや翻訳の整備を進める。

また研究成果については報告書の作成、シンポジウムの開催などを通して公開する予定である。

## 2. 研究の進捗状況

（1）日本近世文学関係では、中国白話小説と日本近世文学との関係について、善書の出版を行った浄土宗の関係についての報告と論文、都賀庭鐘の原拠利用についての考察、上田秋成の和学についての考察、その他読本についての論考を発表している。

日本近世文学の周辺への目配りとして、思想界については、大阪の儒塾である懐徳堂についての新資料発見と報告、近代文学については、正岡子規と秋成の近世和歌についての比較文学的な考察を発表している。

また、論考や報告という形にはなっていないが、研究期間の最終年度が2010年になることを視野にした資料収集、調査、撮影、紙焼資料の蓄積と資源化を現在進行形で随時進めている。

（2）中国文学分科会は日本の江戸文学に大きな影響を与えた三言二拍に関して、中国文学の専門家ではない日本江戸文学の研究者が利用しうるテキストや翻訳・注釈の整理を進めている。三言二拍の翻訳底本をめざし、善本底本の再検討、一部撮影、先行翻訳の収集・資料化、中国古典小説研究会の協力を仰ぎつつ進めている。

（3）当該研究の最終年度としての、生産的な帰結を目睹すべく、日本近世文学研究者と中国白話小説研究者との合同で、シンポジウムを2010年7月に京都大学人文学研究所での実施を企画している。

シンポジウムのパネラーの人選、研究発表者のラインアップも2009年度には終了している。テーマは、中国善書を日本で刊行した黄檗・曹洞宗の心越と浄土宗の京都法然院についての基調報告とそれに関する当該テーマの研究発表である。

現在、シンポジウムの案内書、ポスター作成、事務作業に着手進行している。

## 3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進行している。

（理由）

当該研究を申請した段階では、中国白話小説と日本近世文学との関係についてという、ど

ちらかといえは従来より問題にされている事柄についての発展と深化を目睹していた。研究開始初年度は、岡島冠山の『太平記演義』の善本発掘と報告、刊行などがその当初研究目的に対する達成度を測る好報告であった。しかしながら、2年度目はその幅を各構成員が意識的に拡大することにより、新たなテーマが浮上してきた。この現象は当該研究が科研費の補助を受けた環境の生む当然の成果である。具体的には、従来看過されてきた中国善書についての考察の必要性が生じてきたのである。この当面課題について、いくつかの論文が報告でき、2010年度（最終年度）のシンポジウムが企画されるに至る。このことは当初計画には盛り込まれておらず、まさに研究の進展に伴う「計画以上に進行している」の自己評価に相当するものである。

中国文学分科会の作業については2008年度に『醒世恒言』巻四の翻訳を『中国古典小説研究』14号に掲載し、中国文学研究者、江戸文学研究者の双方の批判を仰ぎ翻訳や注釈の水準の向上の為の意見を求めることができた。これで一つの雛型を作るということ大きな山を越えられ、その後の翻訳作業は予定以上に進捗が期待できる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 日本近世文学については、構成員各自の資料収集、調査を続け、可能な限り研究期間内に於ける論考発表を目指す。ただ本研究課題の性格上、その成果報告が当該研究期間を超えて2011年度に及ぶ可能性がある。

(2) シンポジウムについては、公開の方向を取っているが、折しも京都国立博物館において「上田秋成展」が開催されており、本研究グループ構成員も関わっていることから、そのコラボレーションも考えられる。

シンポジウムの報告については、その報告書の刊行と発送費を平成22年度予算に計上しており、研究期間内に刊行する予定である。

(3) 中国文学分科会の翻訳作業は鋭意すすめるが、なにぶん翻訳対象が膨大であるため、完成には予定以上の時間が必要となる可能性があるが、研究協力者の協力などを仰いで少しでも早い完成を目指したい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

① 近衛典子 秋成抜粋本『天降言』  
駒澤国文第47号 査読無 2010 p.251-264

② 福田安典 明清小説と、日本近世小説と—庭鐘・源内の時代—  
『江戸文学』第38号 査読無 2008 p.90-112

[学会発表] (計1件)

① 福田安典 天人と天女  
東南アジア・日本の天女伝説についてのシンポジウム  
2009.3.14 フィリピン大学

[図書] (計2件)

① 木越治 講談と評弾—伝統話芸の比較研究—  
八木書店 2010 136頁

[その他] (計1件)

① 近衛典子 太平記演義 (本研究課題中間とりまとめ、小冊子) 2008 100頁